

4 救命救急センター



主要傷病別患者数

昨年度と比較して総数に大きな変化はなく、傷病別に比較すると、重症脳血管障害が増加しているが、その増加分に対して重症消化管出血、重症敗血症が半減している。熱傷は減少しているものの重症外傷は変化がない。すなわち内因性傷病疾患の減少は、重症脳血管障害の増加で補填されている。

病院前診療

ドクターカーはより早い医療の提供を目指しているが、地域による病院施設の疾患特異性や、外傷診療科過疎地域など、その出勤回数に偏りがある。MC協議会では、ドクターカーのあり方や運用方法を見直す時期にあると考えるが、当施設は本来の3次救急医療施設としての設備や教育は継続すべきである。

院内災害訓練

昨年度の机上訓練を継続し、南海トラフ地震を想定した各診療科とDMATを交えたタスクフォースへと発展させたい。

今後の治療方針

① 2025年問題

来たる2025年の高齢者人口のピークに合わせて、院内の救急患者のスムーズな受け入れ体制を創造したい。これには2主要体制である、初療時の研修医のシャワー教育と入院患者の院内、院外へのドレナージ体制の構築を目指す。

② 阪神医療圏の拡大

当施設の医療圏は、阪神南医療圏と阪神北医療圏を合わせると180万人規模の医療圏に増加するが、上記で述べた2主要体制の構築のみならず、この医療圏拡大には患者搬送方法、患者転送方法、患者経由方法、ならびに南海トラフ地震を想定した院内患者排出の為にドクターヘリの活用まで伸長して対策を練る必要がある。その為には阪神北医療圏の施設との強固な関係構築のみならず、ハード面の整備も急ぐ。

③ 西宮統合病院との協調

県立西宮病院、西宮市立中央病院との統合病院設立に際して、当院との施設間距離も近いことから医療資源の散在化は避けなければならない。当施設は3次救急医療に特化しており、むしろ統合病院と協調して医療の集約化を図るよう施設の特色に照らし合わせて創造すべきである。当施設の得意とする外傷、集中治療に特化した医療の集約化を実現すべく、質の成熟化を図っていきたい。

4-1 月別入院患者状況

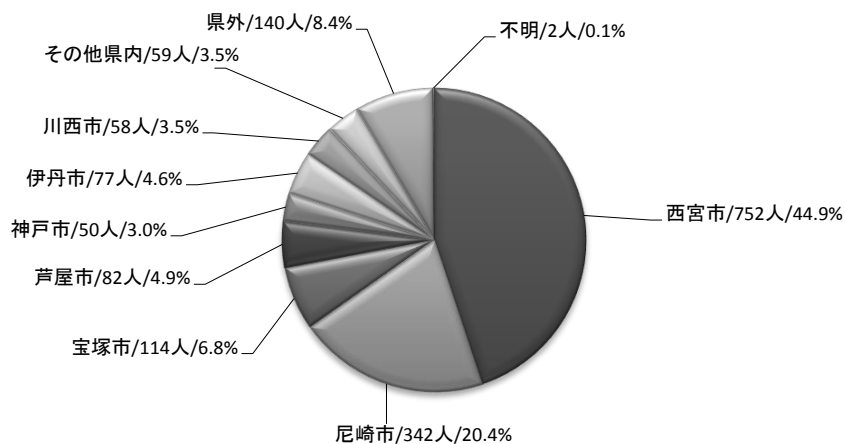
(人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計		
診療日数(日)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365		
E I C U	新入室	103	111	108	107	104	124	114	141	163	141	120	1,440		
	転入	8	19	9	5	14	10	17	24	14	11	11	153		
	退院	20	30	18	17	22	18	22	18	26	31	16	23	261	
	転出	88	100	103	91	101	97	113	106	141	145	138	108	1,331	
	延在室	435	431	403	379	370	352	383	430	473	497	452	425	5,030	
	一日平均	14.5	13.9	13.4	12.2	11.9	11.7	12.4	14.3	15.3	16.0	16.1	13.7	13.8	
	利用率(%)	72.5	69.5	67.2	61.1	59.7	58.7	61.8	71.7	76.3	80.2	80.7	68.5	68.9	
20 床	稼働率(%)	90.5	90.5	87.3	78.5	79.5	77.8	83.5	92.3	103.2	108.5	108.2	89.7	90.7	
	救急 病 棟	新入室	36	23	26	24	20	16	18	22	27	30	23	25	290
		転入	48	57	53	59	60	55	61	60	85	80	77	58	753
		退院	31	32	33	35	35	44	36	29	37	31	32	27	402
		転出	52	50	46	46	47	30	43	54	69	82	67	60	646
		延在室	593	586	581	592	587	525	567	593	603	635	584	547	6,993
		一日平均	19.8	18.9	19.4	19.1	18.9	17.5	18.3	19.8	19.5	20.5	20.9	17.6	19.2
利用率(%)		82.4	78.8	80.7	79.6	78.9	72.9	76.2	82.4	81.0	85.3	86.9	73.5	79.8	
24 床	稼働率(%)	93.9	89.8	91.7	90.5	89.9	83.2	86.8	93.9	95.3	100.5	101.6	85.2	91.8	

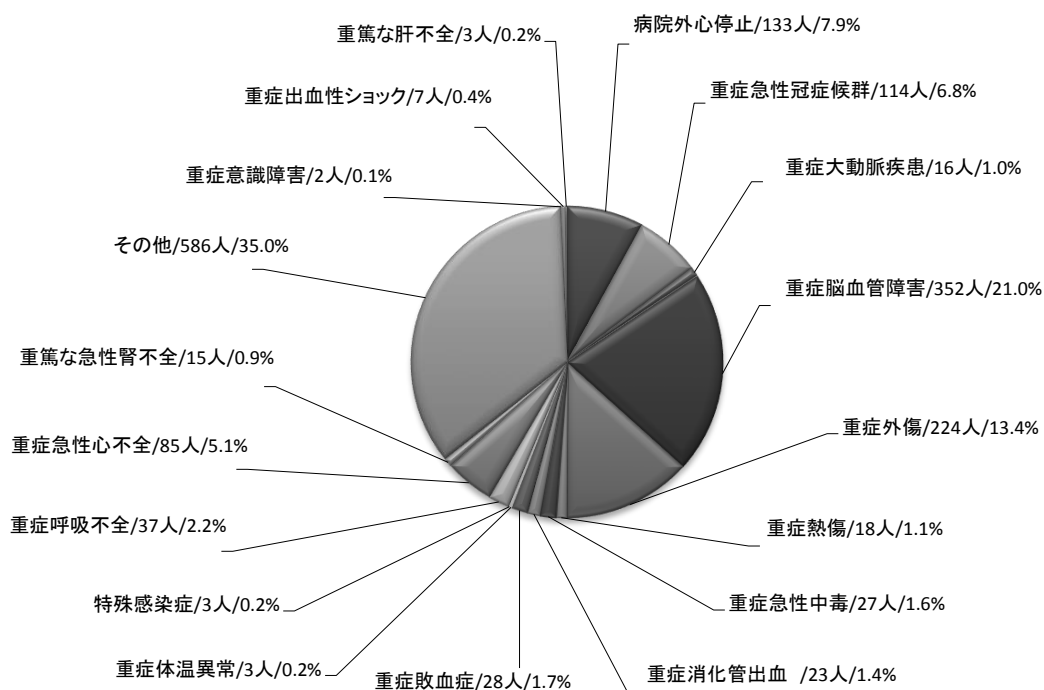
$$\text{利用率} = \frac{\text{在院(室)延患者数}}{\text{実働延病床数}}$$

$$\text{稼働率} = \frac{\text{在院(室)延患者数} + \text{退院(室)転出患者数}}{\text{実働延病床数}}$$

4-2 29年度住所地別患者数の構成比率(合計1,676人)



4-3 29年度主要傷病別患者数の構成比率(合計1,676人)



4-4 29年度年齢別患者数の構成比率(合計1,676人)

